

CKJSだより

第63号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

育てるということ

子どもが小学生の頃、一緒にアサガオを育てました。まず、5月の大型連休明けに種をまきました。水を欠かさずやり、時々肥料を与えました。つるが伸びてくると、支柱をあてがいます。肥料を与えたからといって、成長を早め、すぐに美しい花が咲くわけではありません。結果は数ヶ月も後に出るのです。

夏を迎えた頃、大輪の美しい花が咲きました。咲かせたのは花自身。種子や茎、葉に蓄えられた力が自らの花を咲かせたのです。花を咲かせるまでには手間と時間がかかりました。世話をしているうちに、成長への関心と期待が高まり、愛情が湧いてきます。愛情というもう一つの肥料が、美しい花を咲かせたのかもしれない。



子どもを育てることも同じではないでしょうか。子どもは本来、生命力や成長力を内に秘めています。これらを引き出し、さらに伸ばすには、周囲の教師や保護者の関わり方が重要になります。結果や成果をせいては事をし損じます。腰をじっくり据え、時期が来るのを待つ心のゆとりが欲しいものです。

子どもにより良い成長、発達を促すには、先回りして準備したり、将来遭遇する障害要因を取り除いたりすることも大事ですが、今求めていることを察知し、タイミングよく施すことが重要ではないでしょうか。自動車や家具やパンなどモノは「作る」といいますが、アサガオの花など生き物は作るとは言いません。植物や動物は一般に「育てる」といいます。

子どもを育てる時、型にはまった画一的な指導やしつけは行われません。同一性を求め過ぎると、子どもに同調圧力がかかり、ストレスを生み、自立の遅れにつながるからです。それぞれの子どもがより良く成長していくためには、教師や保護者が子どもの良さや可能性を見出し引き出すとともに、子どもが最適な環境の中で、周囲の人たちと適切に関わることです。

子どもを育てるとは、当事者の意思と可能性を信じ、愛情をもって接すること、支えること、そして、腰を据えて待つことです。

一人一人にその子らしい花を咲かせたい！

●先週号にもありましたように、7日午後より児童生徒の**作品展示**と**古本市**を開催します。来週14日から個別懇談会が始まりますが、懇談会期間中も補習校事務所側の廊下と会議室に展示してあります。駐車場に車を停めた後、補習校事務所側ドアからお入りください。(9時10分～ なお、火曜日から金曜日は15時で終了します)。